

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

事業所名	フレンズジ滝谷2店		
保護者評価実施期間	2025年7月1日 ～ 2025年8月1日		
保護者評価有効回答数	(対象者数) 30	(回答者数) 23	
従業者評価実施期間	2025年7月1日 ～ 2025年8月1日		
従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数) 5	
事業所向け自己評価表 作成日	2025年9月26日		

事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
・プログラムが充実しており、利用者に楽しく・効果的な運動療育を継続して提供している。	プログラム作成時、スタッフ間で意見を出し合い内容を決めている。プログラム終了後も、利用者の反応等を踏まえて改善している	職員の補助研修を充実させ、安全面も担保する。新しいアイデアを取り入れるために外部ツールも積極的に取り入れる。
・保護者・学校・他事業所との連携に積極的に取り組んでいる。	申し送り時や連絡帳にて、活動の様子を伝え、毎月のフレンズジム通信にて、プログラム内容の周知・イベント等の活動報告をしている。ケース会議の参加・事業所間連携会議の開催を行っている。	学校や各家庭で、先生や保護者の方と情報交換をする。児童の直近・当日の様子を伺い、フレンズジムでの様子を伝える。児童の様子に普段と違う点があれば職員内で共有する。
・事業所内に広い活動スペースが確保されているため、ボール遊びを始め、鬼ごっこなどの遊びを展開できる。	室内にしながらダイナミックに身体を動かせるよう、遊びの提供や環境整備に取り組んでいる。	広い空間で単純に身体を動かすだけにならぬよう、身体能力向上を目指したものや児童同士のコミュニケーションが生まれるような遊びを提供する。

事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
・自由遊びの時間におけるスペースの使い分け。	活動スペースが広いことで、遊びの自由度が高く利用者の要求も多様化している。スペースの使い次第で、ケガ等のリスクが高まる。	遊びの種類によるスペース分割を事前に職員間で共有し、安全を確保する。また、利用者にも遊ぶスペースの決まりを事前に伝えトラブルを減らす。
・開所から日が浅い。	開所から日が浅いため、入所一年未満の利用者のみである。各利用者の特性理解をさらに深めていく必要がある。	利用者の特性理解のため、保護者や学校と常に情報共有を意識している。職員間ではケース会議を開催し、利用者への対応やその際の反応等を共有している。

・療育する職員の固定化。

他事業所に比べて職員の総人数が少ないため、関わる職員がほぼ固定化されている。職員の利用者の理解度が高まり、利用者も安心して通所ができるメリットはある。一方で様々な職員と関わることで利用者のコミュニケーション能力を高める機会も生み出せると考える。

職員の確保という点は、事業所レベルの努力では難しい部分がある。しかし、固定化された職員の中でも積極的に利用者に関わって行くことや、利用者同士の交流を促進できるような支援を行っていき、コミュニケーション能力を向上させる機会を担保する。

